

第12回 開国から明治維新へ

§1 日本の開国

1853年、アメリカ合衆国の軍艦が、神奈川県の浦賀という港に来た。軍艦が黒かったため、「黒船の来航」と言われる。軍艦のペリー提督は、開国と通商(=貿易)を求めるアメリカ大統領からの国書を渡して帰り、翌年、再び来航して返事を求めた。

幕府は、朝廷と諸大名に意見を求めたが、開国に反対の意見が強かった。しかし、ペリーの圧力に押され、1854年日米和親条約を結び、開国した。200年以上続いた鎖国が終わり、下田と箱館(現在の函館)の二港で、外国船が水と薪を補給できるようになった。

1858年には、日米修好通商条約が結ばれ、貿易が始まった。これは、日本に関税自主権がなく、外国に領事裁判権がある点など、日本にとって不利な不平等条約だった。同様の条約を、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結んだ。

§2 江戸幕府の終わりと明治維新

外国との貿易が始まったことによって、国内で生糸や銀が不足し、急激な物価上昇が起きた。開国に反対し、武力で外国人を排除しようとする「攘夷」運動と、天皇・朝廷を尊ぶ「尊皇思想」とが結びつき、尊皇攘夷運動が盛んになった。

運動を弾圧した幕府の大老井伊直弼が暗殺され(桜田門外の変)、幕府は朝廷と幕府を結びつける「公武合体」政策を進めることにした。しかし、幕府の力の衰えはとまらず、政治を行う権限を朝廷に返上する(=大政奉還)こととなった。

一方、藩政改革によって力をつけていた長州藩、薩摩藩は、天皇の命令の下、攘夷を実行しようとした。しかし、外国との武力衝突を経験した後、攘夷をやめ、日本の国力を高めるために幕府を倒して(=倒幕)、天皇を中心とした近代国家を作ること为目标とするようになった。そして、大政奉還の後すぐに、王政復古の大号令を発して新政府を立てた。

そのような動きに反対した旧幕府派との間に武力衝突が起こり内乱(=戊辰戦争)となったが、新政府側が勝利した。新政府は1868年に五箇条の誓文を定めて新たな政治方針を明らかにし、様々な近代化の改革を行った。また、同年には元号を明治と改め、江戸は東京と名前をかえて首都となった。このような近代化の幕開けとなった政治的・社会的な一連の変革を明治維新という。

第12回 開国から明治維新へ

§1 日本の開国

1853年、アメリカ合衆国の軍艦が、神奈川県かながわけんの浦賀うらがという港みなとに来た。軍艦が黒かったため、「黒船の来航」と言われる。軍艦のペリー提督は、開国と通商(=貿易)を求めるアメリカ大統領からの国書を渡して帰り、翌年、再び来航して返事を求めた。

幕府は、朝廷と諸大名に意見を求めたが、開国に反対の意見が強かった。しかし、ペリーの圧力に押され、1854年日米和親条約を結び、開国した。200年以上続いた鎖国が終わり、下田と箱館(現在の函館)の二港で、外国船が水と薪を補給できるようになった。

1858年には、日米修好通商条約が結ばれ、貿易が始まった。これは、日本に関税自主権がなく、外国に領事裁判権がある点など、日本にとって不利な不平等条約だった。同様の条約を、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結んだ。

§2 江戸幕府の終わりと明治維新

外国との貿易が始まったことによって、国内で生糸や銀が不足し、急激な物価上昇が起きた。開国に反対し、武力で外国人を排除しようとする「攘夷」運動と、天皇・朝廷を尊ぶ「尊皇思想」とが結びつき、尊皇攘夷運動が盛んになった。

運動を弾圧した幕府の大老井伊直弼が暗殺され(桜田門外の変)、幕府は朝廷と幕府を結びつける「公武合体」政策を進めることにした。しかし、幕府の力の衰えはとまらず、政治を行う権限を朝廷に返上する(=大政奉還)こととなった。

一方、藩政改革によって力をつけていた長州藩、薩摩藩は、天皇の命令の下、攘夷を実行しようとした。しかし、外国との武力衝突を経験した後、攘夷をやめ、日本の国力を高めるために幕府を倒して(=倒幕)、天皇を中心とした近代国家を作ることを目標とするようになった。そして、大政奉還の後すぐに、王政復古の大号令を発して新政府を立てた。

そのような動きに反対した旧幕府派との間に武力衝突が起こり内乱(=戊辰戦争)となったが、新政府側が勝利した。新政府は1868年に五箇条の誓文を定めて新たな政治方針を明らかにし、様々な近代化の改革を行った。また、同年には元号を明治と改め、江戸は東京と名前をかえて首都となった。このような近代化の幕開けとなった政治的・社会的な一連の変革を明治維新という。

Part I 2: From the Opening of the Country to the Meiji Restoration

§1 Opening of Japan to the West

In 1853, a United States warship came to the port of Uraga in Kanagawa Prefecture. Because the warship was black, it is known as the "arrival of the black ships. Commodore Perry of the warship returned after handing a letter of state from the President of the United States requesting the opening of the country(開国 “kaikoku”) and commerce(通商 “tsusho”) (i.e., trade 貿易), and came back the following year to ask for a reply.

The Shogunate asked the Imperial Court and the various feudal lords for their opinions, but they were strongly opposed to opening the country. However, under pressure from Perry, the Shogunate opened the country in 1854 with Convention of Peace and Amity between the United States of America and the Empire of Japan(日米和親条約 “Nichibei Washin Joyaku”), ending more than 200 years of isolation and allowing foreign ships to supply water and firewood at the two ports of Shimoda and Hakodate (present-day Hakodate).

In 1858, the U.S.-Japan Treaty of Amity and Commerce(日米修好通商条約 “Nichibei Shuko Tsusho Joyaku”) was signed and trade began. This was an unequal treaty that was unfavorable to Japan in that Japan had no tariff autonomy(関税自主権 “Kanzeijishuken”) and foreign countries had consular jurisdiction(領事裁判権 “Ryojisaibanken”). Similar treaties were concluded with the Netherlands, Russia, England, and France.

§2 End of the Edo Shogunate and the Meiji Restoration

The start of foreign trade led to a shortage of raw silk and silver in Japan and a sharp rise in prices. The "expulsion of foreigners" movement, which opposed the opening of Japan to the outside world and sought to eliminate foreigners by force, combined with the Emperor's idea of respect for the Emperor and the Imperial Court, and the "Revere the Emperor, Expel the Barbarians" movement(尊皇攘夷運動

“Sonnojoi Undo”) flourished.

After the assassination of Ii Naosuke (桜田門外の変”Sakuradamon-gai no Hen”), who had suppressed the movement, the shogunate decided to pursue a policy of “kōbu gōtai,” or a union of the imperial court and the shogunate. However, the power of the shogunate continued to wane, and the authority to conduct politics was returned to the Imperial Court (i.e., 大政奉還 the Great Restoration of Government). Meanwhile, the Choshu and Satsuma clans, which had gained strength through clan reforms, attempted to carry out the exclusion of foreigners under the emperor's orders. However, after experiencing armed conflict with foreign nations, they decided to abandon exclusionism and overthrow the shogunate (i.e. 倒幕 To-baku) in order to increase Japan's national power, with the goal of creating a modern state centered on the emperor. Then, shortly after the Great Restoration of the Shogunate, a grand edict to restore the monarchy(王政復古の大号令 “Osei fukko no Daigorei”) was issued and a new government was established.

Armed clashes broke out between the old shogunate faction that opposed such moves, resulting in a civil war (= Boshin War(戊辰戦争)), but the new government side won. In 1868, the new government established the Five Articles of Oath(五箇条の誓文 “Gokajo no Goseimon”), clarified a new political policy, and carried out various modernization reforms. In the same year, the name of the former capital was changed to Meiji and Edo was renamed Tokyo and became the capital of Japan. The series of political and social reforms that marked the dawn of modernization are referred to as the Meiji Restoration.

第 12 回 从开国（国家对外开放）到明治维新

§ 1 日本的开国

1853 年，美利坚合众国（美国）的军舰驶入了神奈川县浦贺的港口。这些船只通体黑色（船体为防止生锈涂有黑色的柏油），因此被称之为黑船来航。美国海军准将马休·佩里代表美国总统向幕府递交了要求开放国家和通商的国书后回国，并约定于第二年再次来访寻求答复。

虽然幕府征求了来自朝廷及各大名的意见，但开放国门的要求遭到了各方的强烈反对。另一方面，迫于佩里的压力，日本还是于 1854 年同美国签订了《日美亲善条约》（又称《神奈川条约》），并开放国门。这一条约的签订标志着日本持续了 200 年以上的锁国政策的终结，日本被迫开放下田（今静冈县下田市，东京西南的静冈县的东南部）、箱馆（今北海道函馆市，北海道的西南部）两港口，外国船只可以在这两个港口加柴上水，得到补给。

至 1858 年，随着《日美修好通商条约》的签订，双方开始贸易往来。这一条约包括日本没有关税自主权，以及外国拥有独立的领事裁判权等诸多内容，是极其不利于日本的不平等条约。同时日本还与荷兰、俄罗斯、英国、法国签订了内容大致相同的条约。（史称安政条约）

§ 2 江户幕府末期和明治维新

随着与外国贸易往来的开始，国内生丝和银的储备陷入不足，造成了物价的急剧上涨。这一时期，主张反对开放国门、并试图以武力驱逐外国人的“攘夷运动”与尊崇朝廷及天皇的“尊皇思想”相结合，从而使“尊皇攘夷运动”兴盛起来。

这之后，镇压运动的幕府大老（官职名）井伊直弼遭到暗杀（史称樱田门外之变），幕府遂转向朝廷与幕府联合的“公武合体”政策。但这并不能阻止幕府权力的衰微，行使政治的权力归还给了朝廷（史称大政奉还（大政奉還））。

另一方面，因藩政改革而实力大增的长州藩和萨摩藩在天皇的命令之下，试图进行攘夷运动。然而，在经历了与外国势力的武装冲突后，放弃攘夷，转而以打倒幕府（倒幕）进而提升日本国力，建立一个以天皇为中心的近代化国家为目标。并且在大政奉还之后立即颁布了王政复古大号令成立新政府。

在反对新政的旧幕府派和新政府之间爆发的内战（史称戊辰战争）中，新政府取得了最终胜利。新政府于 1868 年制定了五条御誓文，明确了新的政治方针，进行各种近代化改革。且于同年，改年号为明治，改江户为东京并定都于此。这样一系列的政治、社会改革便是拉开日本近代化序幕的明治维新。